

賈生長沙王太傅三年、有鶚飛入賈生舍、止于坐隅。楚人命鶚曰服。賈生既以謫居長沙。長沙卑湿、自以為壽不得長、傷悼之。乃爲賦以自廣。

〔口語訳〕賈生が長沙王の太傅となった三年目、鶚はくろが彼の宿舎に飛び込み、むしろの片隅にとまった。楚の土地の人はこの鳥を服と呼ぶ。賈生は左遷されて長沙に住まっていたが、ここは低地で湿気が多い。自分の寿命も長くはないだろうと思って、胸を痛めていた。そこで賦を作り心をくつろげることとした。

〔本文は『史記會注考證』に拠り、口語訳は、岩波文庫『史記列伝二』に拠る。傍線筆者〕。

この故事は、『漢書列伝 十八』及び『蒙求』「賈誼忌鶚」にも載る。又、右に引用した一文は次の『文選』にも載る。

〔『文選』「鶚鳥賦一首 并序」(賈誼作)〕

賈誼長沙王傅。三年有鶚鳥、飛入誼舍、止於坐隅。鶚似鶚不祥鳥也。誼既以謫居長沙。長沙卑湿。誼自傷悼、以為壽不得長、迺爲賦以自廣。

〔本文は全釈漢文大系27『文選(文章編) 二』に拠る。傍線筆者〕。

補説②

○58句「湘水水瀄滌」の故事について

この句には、失意のうちに汨羅の川に入水自殺した屈原の次のような故事を響かせている。(『史記』「屈原・賈